

## SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（シナリオ創出フェーズ）

### 令和2年度採択プロジェクト 事後評価報告書

2023年（令和5年）3月

研究開発プロジェクト名：「発達障害の特性に関連する対処法を多様な脳特性に対応して自動提案する情報配信サービスの可能性検証」

研究代表者：佐々木 銀河（筑波大学 人間系 准教授）

協働実施者：鈴木 慶太（株式会社 Kaizen 代表取締役）

実施期間：2020年（令和2年）10月～2022年（令和4年）9月

#### 総合評価

十分な成果が得られたと評価する。

本プロジェクトは、支援情報配信サービス「Learning Support Book（障害の有無を問わず、全ての大学生にとって学習や就労に有益な対処法を配信するサービス）」を活用して、利用者が日々の困り事を投稿すると、それに対応した対処法を自動的に提案するチャットボットシステム（人工知能による自動応答システム）を開発する。チャットボット開発により、支援につながりにくい発達障害当事者などが有効な自助スキルを身につけ、必要な支援サービスにつながることを目指す。成人期の発達障害当事者との共創により、実際の発達障害当事者の支援ニーズをシステムに反映させながら、システムの効果検証ならびに全国展開に向けたスキームを検討するものである。

プロジェクトとして着実に進めてきており、データに基づいて成果を示しつつ、チャットボットシステムが運用可能なレベルまで開発と検証が進んでいる。種々のステークホルダーとの連携体制のもと、社会実装に着手できる準備が整いつつあり、計画・実施など各段階で成果が得られたと評価する。チャットボットシステムが活用される技術になるために、長期的な効果や、その先の支援への連携、支援者の研修や補助ツールとしての活用など、当事者と支援現場に届き、彼らの実感と主体性を引き出すことが望まれる。そのためにも、今後の展開に不可欠な協働実施者の開発・育成を進展し、他地域展開の基礎づくりが、協働実施者との共同実施によって進むことを期待する。

#### 項目評価

##### 1. 目標の妥当性

目標は妥当であったと評価する。

これまでの実績を踏まえたシナリオとして完成度が高く、発達障害者支援に関するボトルネックが適切に定義された。チャットボットシステムを全国の青年期・成人期発達障害者、および発達障害の診断はないが傾向を有する者を含めて展開するシナリオ創出のために、支援ニーズ類型と対処法間のアルゴリズムを定式化し、チャットボットシステムに反映し

て可能性試験を行い、全国の高等教育機関や就業環境に導入する働きかけを行う、という目標は適切であった。今後は協働実施者をはじめとする民間との連携を、デザインしていくための検討を進めること期待する。

## 2. 研究開発プロジェクトの目標の達成状況および研究開発成果

プロジェクトの目標は達成されたと評価する。

最初の可能性試験の段階では効果が見えなかったが、その後、アドバイスを受けて緻密な計画を練って効果検証を行い、効果を確認することが出来るようになった点で評価は高い。チャットボットシステムに採用するアルゴリズムの精度向上やユーザビリティ向上等の実証実験の参加者をしっかりと確保できたことは、本プロジェクトに対する社会的ニーズの高さがうかがえる。また、十分なデータを得ることで、開発したチャットボットシステムを全国の青年期・成人期発達障害者、および発達障害の診断はないが傾向を有する者を含めて展開するシナリオの創出に結びつけた。一方で、成果の内容については、対象に対して研究代表者の強いインストラクションが入っているため、今後、多くの人に同様に使って貰うためには工夫が必要である。他地域展開の際に、利用者の満足感を図る設計まで及ぶことを期待する。また、コーディネーターやシステム開発担当の確保のための課題と解決策を明示し、今後の展開に不可欠な協働実施者の開発・育成も併せて期待する。

## 3. 研究開発プロジェクトの運営・活動状況

プロジェクトの運営・活動状況は妥当だったと評価する。

チャットボットシステムの構築において、当事者の参画が得られる体制が構築されていた。また、ユーザー側から他の仕組みと比較した優位性も評価されており、緻密な研究計画のもとに実証試験が重ねられていた。一方で、協働実施者との役割分担や連携の部分がやや分かり難いため、協働実施者の開発・育成についての道筋を明確に描いていくことを期待する。

## 4. プロジェクト終了後の事業構想(研究開発成果の活用・展開の可能性)

プロジェクト終了後の事業構想は、十分描けていると評価する。

本プロジェクトの成果として、受益者の価値が明確に示されており、当事者コミュニティと研究者や支援者の共創の仕組みについても十分に意識されていることを評価する。一定の事業モデルも構築されており、実現可能性が高いものと期待する。いくつかの企業等による事業の想定をされているので、事業の収益モデルの構築についてなどの検討が進められることを期待する。

## 5. その他

なし